家　　庭

1　全般的事項

問１　職業に関する専門教育としての家庭科の目標をどのように改善したか。

家庭に関する学科が対象としている衣食住、家族・保育、家庭看護・福祉などにかかわる産業を「生活産業」ととらえ、「生活産業」の各分野で必要とされる資質や能力の育成を重視する趣旨を明確にするために、職業に関する専門教育としての家庭科の目標を独立して示すこととした。目標を大きく次の三つに分けて考え、これらを有機的に関連付けて、生活産業にかかわる将来のスペシャリストに必要な資質や能力の育成を目指している。

①　家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本としての知識と技術を習得させる

衣食住、保育、家庭看護や介護などの専門教科「家庭」にかかわる各分野の学習を、家庭生活を支える生活産業や職業の視点でとらえ、将来のスペシャリストとして必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させることが大切である。

②　生活産業の社会的な意義や役割を理解させる

女性の社会進出や家事の社会化・外部化などが進行し、今後、少子高齢化が一層進行することが予測される中、衣食住、保育、家庭看護や介護などの分野の生活を支える生活産業が産業構造の中でどのような意義をもち、どのような役割を果たしているかを理解させる必要がある。

③　家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図ることのできる創造的な能力と実践的な態度を育てる

衣食住、保育、家庭看護や介護などの家庭の各分野で生じる諸課題について、進んで取り組み、科学的で論理的な方法で解決する学習が、最終的には、社会の発展を図ることをねらいとした創造的な能力と実践的な態度を育てることとなる。

問２　原則履修科目が「生活産業基礎」と「課題研究」になったのは、なぜか。

「生活産業基礎」では、衣食住、家族・保育、家庭看護・福祉などにかかわる生活産業に関心をもたせ、生活と産業とのかかわりや生活に関する職業について理解をさせるとともに、専門の学習への動機付けや卒業後の進路についての生徒の意識を深めることを目的にしている。内容は、生活と産業とのかかわりや生活産業と職業についての基礎的な内容など、専門的な学習への動機付けとなるように構成されている。

「課題研究」は、生徒が主体的に設定した課題について知識・技能の深化・総合化を図る学習である。問題解決能力や創造的な学習態度を育てることをねらいとしており、今回の改訂の基本的なねらいである自ら学び自ら考える力など「生きる力」を育成する上でも、大きな役割を果たす科目である。

今回の改訂においては、(1)調査、研究、実験、(2)作品製作、(3)産業現場等における実習、(4)職業資格の取得の他に、(5)学校家庭クラブ活動を内容の一つに加えており、家庭に関する各学科における学校家庭クラブ活動を、生徒の主体的な学習活動として一層充実する必要がある。

なお、「生活産業基礎」は、科目の性格やねらいなどからみて低学年で、また、「課題研究」は高学年で履修させるようにすることとされている。

問３　現行の被服全般に関する科目が、大幅に整理統合・削除され新科目となった。
新科目と現行科目の内容の関連はどのようになっているか。

次の図は、現行と新学習指導要領の被服に関する科目の内容の関連を表したものである。

＜　現　行　＞

第６節　被服
（１）被服の変遷
（２）被服のデザイン
（３）被服材料
（４）被服管理
（５）被服製作
（６）着装
（７）服飾手芸
（８）衣生活の充実向上

第16節　服飾デザイン
（１）服飾の変遷
（２）服飾デザインの基礎
（３）服飾デザインの発想と統一
（４）服飾デザインと個性
（５）着用目的と服飾デザイン
（６）服飾産業

第13節　被服製作
（１）体型と被服
（２）被服の立体構成と特徴
（３）洋服の製作
（４）和服の製作
（５）着装
（６）被服製作の合理化

第17節　手芸
（１）手芸と生活
（２）手芸の種類
（３）手芸品の製作

第15節　被服管理
（１）衣生活の計画
（２）被服と保健衛生
（３）被服整理
（４）被服管理の合理化

→ 削　除

＜新学習指導要領＞

第９節　服飾文化
（１）被服の基本型と文化
（２）服飾と流行
（３）着装
（４）服飾文化の伝承と創造

第11節　ファッションデザイン
（１）ファッションデザインの基礎
（２）ファッションデザインの発想と表現法
（３）ファッション産業
（４）商品企画

第10節　被服製作
（１）被服構成の基礎　（４）洋服の製作
（２）被服の構成技法　（５）和服の製作
（３）被服材料の種類と特徴

第12節　服飾手芸
（１）手芸の種類と変遷　（３）手芸品の製作
（２）服飾材料としての各種手芸の技法

＜　現　行　＞

第14節　被服材料
（１）被服材料の種類と特徴
（２）被服材料の加工
（３）被服の機能と被服材料の性能
（４）被服材料の発展

2　各科目

(1)　生活産業基礎

問１　「生活産業基礎」の内容の構成及び取扱いは、どのようになっているか。

この科目は、(1)生活と産業、(2)社会の変化と生活産業、(3)生活産業と職業、(4)職業生活と自己実現の４項目で構成されている。

○　生活と産業

各自の生活を振り返ったり、生活時間調査、家計調査などの生活にかかわる各種調査を基にして、家庭生活の変化に気付かせるとともに、具体的な食生活、衣生活、住生活、家庭経営、保育、家庭看護・福祉などを取り上げ、これらが様々な産業に支えられて成り立っていることについて理解させる。

○　社会の変化と生活産業

社会の変化に伴い、生活に関する価値観が多様化するとともに消費者のニーズが多様化・高度化しており、そのような状況に対応して家庭生活を支える生活産業が発展していることについて理解させる。

○　生活産業と職業

家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する職業について、社会人講師の講話や産業現場等の見学、就業体験、調査などを取り入れて、具体的、体験的に理解させる。また、見学、就業体験、調査などの成果を発表させることなどを通して、生活産業への関心を高めさせる。

ここでは、生活デザイン科などにおいては、「イ　衣生活関連分野」や「ウ　住生活関連分野」等に重点を置いて取り上げるなど、各学科に関連の深い産業や職業について、具体的な事例を通して理解を深めさせる。

○　職業生活と自己実現

職業生活が自己実現につながることを、社会人講師の講話や討論などを通して、具体的、体験的に認識させる。その上で、専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業における職業資格の意義について考えさせ、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てさせることなどを通して、専門科目の学習に向けての意欲を高めさせる。

(2)　消費生活

問１　「消費生活」は、現行の「消費経済」をどのように改善したか。

社会の変化に対応して消費者の権利と責任に関する内容を充実するとともに、環境保全に配慮した消費行動がとれるようにするため、商品研究や事例研究、商品テスト、実験・実習、見学等の実践的・体験的な学習を加えるなどの改善を図り、科目の名称が「消費生活」と改められた。

次の表は、現行の「消費経済」と「消費生活」を対比して示したものである。

消　費　経　済	消　　費　　生　　活
（1）経済の発展と家庭生活 ア　経済の発展と家庭の経済 イ　家族周期と経済計画 ウ　家計診断 （2）消費社会と消費者 ア　消費構造の変化と家庭生活 イ　商品の生産と流通	（1）経済の発展と消費生活 ア　国民経済の動向と家庭生活 イ　社会の変化と消費生活
（3）財・サービスの選択と購入 ア　商品選択と生活情報 イ　販売方法の多様化 ウ　消費者信用 エ　財・サービスの購入と契約	（2）財・サービスの選択と意思決定 ア　多様化する流通・販売方法と消費者 イ　生活情報の活用 ウ　金銭管理と消費者信用 エ　契約と消費者
（4）消費者としての自覚 ア　消費者問題 イ　消費者の保護 ウ　消費生活の展望 （5）消費生活関係法規	（3）消費者の権利と責任 ア　消費者問題 イ　消費者の保護と関係法規 ウ　消費行動と環境保全
	（4）消費生活演習 ア　商品研究 イ　事例研究

(3)　発達と保育、児童文化

問１　現行の保育関連科目を整理統合して再構成された「発達と保育」、「児童文化」は、どのような内容に改善されたか。また、指導上の留意点は何か。

保育士試験の改正と少子化の進行に対応して、現行の「保育」、「保育原理・技術」、「小児保健」、「児童心理」及び「児童福祉」を整理統合して内容を構成した科目が「発達と保育」である。また、「保育」及び「保育原理・技術」の中の児童文化に関する内容を整理統合した科目が「児童文化」である。

子どもを生み育てることの意義や親子関係の大切さを認識させるためには、高校生の時期に乳幼児との触れ合いや交流を図る学習活動を通して、乳幼児の発達の特徴や乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を取得させることが重要であり、少子化に対応した教育として意義深いものと考えられる。

このため、実際に乳幼児と触れ合う学習ができるよう、幼稚園や保育所等との連携を十分に図り、観察、参加、実習などの実践的・体験的な学習を多く取り入れるとともに、視聴覚教材や情報関連機器を活用し、指導内容の定着を図るようにする。

(4) リビングデザイン

問１　「リビングデザイン」は、現行の「住居」をどのように改善したか。

住まい方に視点を置きながらインテリアを考えることができるよう、住空間の形態と構成、平面計画、インテリアデザイン実習などの実践的・体験的な学習を充実するなどの改善を図り、科目の名称が「リビングデザイン」と改められた。

この科目は、生活と住居とのかかわり、住空間の形態と構成や住居の平面計画などの住居の設計、インテリアデザインなどに関する知識と技術を習得させ、人々の住意識や住要求に応えた快適な住生活をデザインする能力と態度を育てることを目標としている。

(5) 服飾文化

問１　「服飾文化」の内容(4)服飾文化の伝承と創造の指導上の留意点は何か。

この科目は、服飾の変遷、着装など、服飾文化の伝承と創造に関する内容を重視しており、(1)被服の基本型と文化、(2)服飾と流行、(3)着装、(4)服装文化の伝承と創造の４項目で構成されている。内容の(4)については、(1)から(3)までの学習とかかわらせて個人又はグループで適切な課題を設定させるように留意する。例えば、世界の民族衣装や日本の各地域に伝わる伝統的な服飾文化などを調査・研究させたり、創意工夫した和服の着付けなどの課題に取り組ませるなどして、服飾文化の伝承と創造への意欲をもたせるような工夫が大切である。

(6) ファッションデザイン

問１　「ファッションデザイン」はどのようなことに重点を置いているか。

この科目では、ファッションデザインに関する基礎的・基本的な学習の上に、発想と表現法や商品企画などの専門的な知識と技術を習得させ、美しくかつ創造的にファッションをデザインすることができる能力と実践的な態度を育てることを目指している。ファッション産業、アパレル産業の動向等に対応し、衣服のみを対象とするのではなく、身に付けるものを総合的にとらえる視点を重視して内容の改善を図り、現行の「服飾デザイン」の科目の名称が「ファッションデザイン」と改められた。

(7) 服飾手芸

問１　「服飾手芸」はどのようなことに重点を置いているか。

この科目では、ファッションデザインのための素材づくりに活用できる刺しゅう、編み物、染色、パッチワーク、刺し子、組紐、革細工など各種手芸の技法を習得させることを目指している。服飾材料としての各種手芸の技法に関する内容を充実するなどの改善を図り、現行の「手芸」の科目の名称が「服飾手芸」と改められた。

指導に当たっては、「服飾文化」、「被服製作」及び「ファッションデザイン」との関連を図るようにする。

(8) フードデザイン

問１　「フードデザイン」は、現行の「食物」をどのように改善したか。

この科目は、国際化、高齢化、食産業の進展などにより、食環境が大きく変化していることや国民の健康への関心の高まりなどに対応し、食事を整えることに重点を置いて、現行の「食物」の内容を再構成するとともに、食事を総合的にデザインする能力の育成を目指して、科目の名称が「フードデザイン」と改められた。

次の表は、「食物」と「フードデザイン」の目標・内容を示したものである。

	食　　物	フ　ー　ド　デ　ザ　イ　ン
目標	栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、健康な食生活を営むことのできる能力と態度を育てる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。
内容	（1）食生活の変遷と食文化	（1）食事の意義と役割
	（2）健康と栄養 ア　栄養素の機能と代謝 イ　食物の摂取と消化吸収 ウ　栄養所要量 エ　栄養状態の評価 オ　年齢と栄養 カ　労働・スポーツ、妊娠・出産と栄養 キ　病態と栄養	（2）フードデザインの構成要素 ア　栄養
	（3）食品の性質と加工・貯蔵 ア　食品の生産と流通 イ　食品の成分と性質 ウ　食品の加工と貯蔵 エ　食品の多様化と選択	イ　食品
	（4）献立と調理 ア　献立の作成 イ　調理の目的と調理操作 ウ　食品の調理性 エ　様式別の献立と調理 オ　病人食の献立と調理 カ　大量調理 キ　調理の施設・設備と調理用機器	ウ　調理 エ　料理様式と献立
	（5）食品衛生 ア　食品の変質とその防止 イ　食中毒 ウ　食生活の安全と衛生	
	（6）食生活の充実向上	
		オ　テーブルコーディネート （3）フードデザインの実習 ア　食事テーマの設定と献立作成 イ　食品の選択と調理 ウ　テーブルコーディネートとサービスの実習